

2005 年 第 8 回日本代替・相補・伝統医療連合会議 (J A C T)

過敏性腸症候群における慢性下痢ないし便秘症状に対してバイオファーマンティクス® が有効であった 7 例

○関口守衛、新良一 a、三浦竜介 b；ドイツ文化会館・赤坂関口クリニック（医師）

過敏性腸症候群 (IBS) では下痢、便秘の両者ないし片方が出現し日常生活に支障をきたすので、通常の医師処方でも症状改善が得られない症例についてバイオファーマンティクス (BF) の効果を判定する臨床試験を行った。

【方法】

IBS の診断基準を満たす症例に、まず 2 週間の便通日誌を記入してもらい、次いで BF を原料とするサプリメント「生源」(シー・エム・シー製) を 1 日 3 スティック (4.5g) 3 分服飲用を開始し 2 週～4 週にわたる日誌記入による効果判定をおこなった。BF は各種の有効乳酸菌、酵母で大豆をもとに混合培養して得られた発酵生産物 (エイ・エル・エイ製) である。

対象となった 8 例の内訳は男性 5 例、女性 3 例で、年齢は 50～76 歳で、各種の慢性疾患のために通院している患者の中から選出された。

【結果】

従来対処的に薬剤服用をしていた場合は、継続した状態から生源服用を開始したところ、7 例で症状改善 (快便) が得られ、全例において全身的に気分爽快となり継続使用を望み、以後 2 ヶ月から 5 年間にわたって改善状態を持続している。例外 1 症例では無効であるほかに腹部不快を訴えて服用を中止した。

【結論】

本症に対する有効性の要因は腸内細菌の動静に対して好影響を及ぼした事と、本症に関連する自律神経失調状態に対する生源の改善効果、とが考えられ、有用安全なサプリメントであろう。